

2013年3月14日



第56号

HYAKUSHO-HYAKUSHO. HYAKUSHO-HYAKUSHO.

百姓百生

その50

農業ジャーナリスト
福島「農と食」再生ネット代表

西沢江美子さん

HYAKUSHO-HYAKUSHO. HYAKUSHO-HYAKUSHO.



三春の野菜畑の前で
西沢江美子さん（左）と会沢テルさん

地球的課題の実験村発足当初からの村民の一人。連れ合いのやはり農業ジャーナリストで実験村共同代表の大野和興さんとともに、いつも私たちの活動の場にいる。その西沢さん、一昨年の東日本大震災・福島原発事故の後、被災地にとどまり農に生きることを選んだ女性たちを支えようと、取材や活動でつながった人々と連絡を取り福島「農と食」再生ネットワークを立ち上げた。滝桜で有名な三春町の女性たちが農産加工グループを結成するのも立ち会いながら、これまで2回の滝桜花見会、2回の収穫祭を催した。昨年10月、遅ればせながら私（平野）も「稔りを分かち合おう！ 三春の収穫祭」に参加し

た。このバスツアー、首都圏ばかりでなく全国から被災地に思い寄せる人たちが、現地に足を運び、被災住民と交流し、原発事故、農業、地域を考える機会となっている。当日同じバスに乗り込むものと思っていた西沢さんは先に現地入りしていて、私たちがついたときにはエプロンと襷たすきの姿で農産加工グループの女性たちに混じって、集会所の土間で大釜から立ち上る湯気のなかにいた。私たち来訪者の昼の用意のためだ。取り組みの段取りをつけると、仲間の一人として現場で働く、これが西沢さんの活動のスタイルだ。

西沢江美子さんは、1940年千葉県佐倉で生まれた。父は職業軍人だったが、男子を生み戦地に送り出すことが美德とされた時代に、女の子の出生を願って成田山にお百度参りもしたらしい。出征の前日に、お礼参りもしたという。「当時の世相に対する最大の抵抗だったと思う」と同時に「そういうものをもって生まれたんだ」と意識して育った。女性への差別・束縛と闘うこと、戦争に反対することは、西沢さんの生き方の中心を占めている。

1歳半で母の故郷の群馬県中里村（現神流町）に引っ越す。ここは山なみを2つ越えると、明治の時代に自由民権の嵐を起こした秩父困民党の秩父だ。西沢さんの曾爺さんも秩父事件に関与して罰金刑を受けている。お爺さんは青年団活動や廃娼運動などして村長もした。このお爺さんから西沢さんは民主主義のこと、新憲法のこと、戸籍制度のことなど教わり、影響をうけた。

早熟な少女だったようだ。10歳の時、代
(次ページへ)

用教員と思われる若い先生が「学テ」闘争に取り組んでいたのを記憶している。13歳の時、年齢を偽って共産主義青年団に入り、高校時代は民青同盟員だった。

祖母も母も高い教育を受けたかったが女性であることでそれが果たせなかったから、西沢さんが大学に進むことは「3代にわたる女の悲願だった」。大学は茨城大学農学部、自分が決めた。「中里村は田一枚無く、米一粒も取れないところ。何とか村が食ってゆけるようにしたかった」。それまでの和紙・漆・かいこ・こんにやく・竹・炭などの換金作物がだんだんダメになり、敗戦後新しい農業政策として羊の飼育が注目されていた。そこで畜産科を選んだ。農学部初の女子学生だった。2年に進むとき、畜産科長の繁殖学の教授が、繁殖学の講義をするのに「女は困る」と進級を拒まれた。やむなく農業経済に方向転換した。

大学1年の時、60年安保闘争。水戸で、安保改定反対、農産物自由化反対の街頭宣伝活動をやりカンパを集め、バスをチャーターして東京の中央デモに参加した。学問は戦争に加担しないとの誓いの下に生まれた、全国的なゼミナール運動の一つ「農学ゼミナール」が茨城大学になかったのでこれを立ち上げ、3年生の時には関東ブロックの委員長になる。農産物自由化反対では、大豆の自由化で水戸の地場産業の納豆はどうなるか、納豆屋の老舗の社長が話を聞いてくれて、業界・商工会を巻き込んだ全市的な閉店ストにまで発展した。西沢さんには組織作り、運動づくりが身に沁みついている。

社会人になり日本農業新聞に入ってから、労働組合を作り、婦人部を作った。女性の目を紙面に反映させたくて、編集局の各紙面に婦人部を置かせたりした。社外では「在京婦人マスコミ人の会」を立ち上げている。

記者時代に空港問題の三里塚で女性たちに取材した「三里塚の母ちゃんたち」（3回連載）がある。「私の入り方は、女たちの愚痴を聞くことから。普通の人の問題に立ち向か

う中で、どう変わっていくのかをみるのが好き」だという。この姿勢が、いま福島・三春の女性たちとの交流につながっている。

福島原発事故の後、前から付き合いのあった三春の会沢テルさんに連絡を取った。テルさんが農協女性部の県連の会長、全国の副会長の時からの付き合いで、同い年ということもあり気が合い愚痴を聞いてきた。そのテルさんが今年（11年春）は滝桜の花見もできないんだという。この非常時に花見などとてもないという雰囲気だというのだ。西沢さんも自分の周りにもあった、過剰な自己抑制の空気が気になっていた。幼かった戦時中の、餅をつく音にさえ気を使った暗い思い出が重なった。こういう時こそ花見をしよう。西沢さんの呼びかけで在京の市民、NGOが実行委員会を作り、約80人が11年4月23日、バス2台で三春を訪れ、滝桜・花見祭りを実現した。この動きは三春町の人々を元気づけた。会沢さんは仲間の女性たちと地元で伝わるみそ・もち・まんじゅう・漬物などを加工販売する芹澤農産加工グループを作った。これを支えるのが西沢さんが代表をつとめる福島「農と食」再生ネットワークだ。

いま、滝桜花見会と収穫祭は三春の人々が心待ちにする行事になり、三春町と地元JAが協賛するまでになっている。

一つだけ気にかかることがあり西沢さんに尋ねてみた。三春には子供たちがいない、若い親たちもいない。そんな中で地域の再興は難しいのでは、と。百も承知といった口調で次のように答えてくれた。「年寄りたちが、終の棲家をここだと決めて、最後まで人間らしく生きてゆける、そのことが私のかかわろうとしていること」。そして「足尾や水俣、それに三里塚もおなじ。起こってしまったことは大変な悲劇。でも最後は、そこから出ていく人、残る人が人間らしく生きていけることが大切」と。重い言葉だった。

（平野靖識）

地球的課題の実験村 この1年とこれから

【全体の動き】

この1年の実験村の活動から出来たこと、出来なかったこと、課題などを考えてみたい。実験村は発足当初から三つのプロジェクトを軸に活動してきた。「北総大地夕立計画」「麦・大豆畑トラスト」「地域自立のエネルギー」である。それに加えて、実験村の趣旨にそって、対外的なさまざまな活動に参加する方針を掲げてやってきた。(大野和興)

◆三つのプロジェクト

「北総大地夕立計画」で進めている森づくりについては、平野報告にある通り、定例日毎の共同作業は順調に続き、山は見違えるように美しくなった。今後、さらに周辺の森に手を広げていきたいと山持ちさんと話し合っているところという報告も平野さんから。

「麦・大豆畑トラスト」は若手の金森さんに担ってもらうようになって1年。着実にこなしていただいととてもありがたい。

「地域自立のエネルギー」プロジェクトは、一時停滞していたが、3・11原発事故を受けて新しい盛り上がりと実践が出てきた。樋ヶさんが報告している「木の根おひさま発電所」「東峰陽鶏発電所」、そしてこれらをきっかけに北総に広がりつつある再生エネルギーへの取り組みで



ある。さらにこうした動きを全国へつなげようと「農漁村発電網」という構想も生み出された。

◆仲間、参加者を増やそう

活動全般にいえるのは新しい仲間、参加者をどう確保していくかということ。「トラスト」でも金森さんはメンバーが次第に減ってきていることを指摘している。実験村全体でいろんな形で呼びかけを強める必要がある。

そんな中で、「木の根おひさま発電所」完成を記念して開いた夏祭りなどで、若いアーティストが音楽や踊りをひっさげて参加してくれているのを見ると、ここに新しい実験村の芽の一つがあるという気がする。

◆東海原発、TPPと福島・三春の女たちと

対外的な活動では、東海原発への取り組み、日本の社会の仕組みを根底から変えてしまう恐れがあるTPP（環太平洋経済協力会議）反対の運動への参加、福島県三春町で地元の農業女性グループと一緒に「村で生きる権利」を求めて活動している「福島『農と食』再生ネット」を支えての活動などを軸に、この1年、動いてきた。これからの1年も、この三つの活動を軸に動きたい。



【北総大地夕立計画】

平野靖識

毎月第3土曜日を中心に、芝山町小寒田^{こがんだ}にある「夕立の森」に入り、藪^{くさ}かり、下草^{きこり}かり、枯れ木・懸り木の処理、薪づくりなどの樵仕事を続けている。10年前には密生したネザサや、クズ、ヤブカラシの繁殖力^{きこり}に阻まれて、少し進んでは翌月には押し戻されているというありさまだった。

今では森の手入れもあらかたすんで、ヤブの中に閉じ込められていた雑木の苗が成木に育ち、林の景色を変えていくのを楽しんでいるところだ。

夕立の森での作業は、お昼までは林内の思い思いの場所で、自分流のやり方で仕事にとりくむ。ゆっくり体をあたたためてひと月ぶりの山仕事に体を慣らす。

【麦大豆畑トラスト】

金森史明

◆麦まき、大豆収穫、麦踏み、糶&味噌づくりをやりました！

2012年11月10日に麦まきを行ないました。まだ大豆の木に葉っぱがビミョーに残っているなか、麦をまきました。

続いて12月8日は大豆の収穫を行ないました。この日は強風が吹きすさぶなんとも厳しいなかでの作業となりました。が、おかげで大豆の木がほどよく乾燥してなんとか一日で刈りと脱穀を完了させることができました。大豆の収穫量は、選別後の量で約240kgでした。まずまずの収穫量でした！

年が明けて1月12日には麦踏みをしました。ほどよく大きくなっていたとは思いますが、ちょっとまいた種の量が多かったかもしれません。寒さに負けずに大きくたくさん実ってほしいです。

そして2月9日には糶づくり、16日には味噌づくりをやりました。これをやると、麦・大豆畑トラストの一年が終わったという気になります。

お昼は新鮮な野菜をふんだんに炊き込んだ味噌汁で弁当を使う。林の中での食事は最高においしいし、それぞれが持ち寄る違った暮らしや仕事の話がまた楽しい。

午後は、その日のポイントとなる仕事にみんなを取り掛かる。このときの呼吸を合わせての共同作業、一気にはかがゆく。きれいになった仕事あとをみんなで見つめる、その時の充実感がまた何とも言えないものがある。一服のお茶のあとは、また林の中に散って、一人であるいはグループでやり残した仕事を夕方までやる。

去年の秋、たまたま夕立の森の隣の山持ちさんに会い、境を越えてそちらの林に入って活動してよいかと尋ねたところ、快く承諾してくれた。今年は林の掃除をお隣まで広げ、夕立の森と同じに手入れしてゆきたい。広く深い森ができるに違いない。

今回の作業は2013年4月13日（土）に畑の草取りに実施を考えています。

◆2012年度の麦・大豆畑トラストの収穫物をお届けしました！

2012年度は小麦は作付けしなかったため大豆（あるいは生味噌）のみのお届けとなりました。現在、麦は順調に生育しておりますので来年は小麦（全粒粉あるいは玄麦うどんになります）もお届けできると思います。

味噌についてですが、現在は米麴を使用した米味噌となっています。しかし、せっかく小麦を作っているため、来年は麦麴を使用した麦味噌をお届けしたいと考えています。どうしても米味噌がいい！ という方にはご相談に応じます。

◆会員拡大を

麦・大豆畑トラストの会員も徐々に減りつつあります。もしお近くに興味のある方がいらっしゃいましたら、ぜひお誘いください！

これからも麦・大豆畑トラストのご参加・ご支援をよろしくお願いいたします！！

【地域自立のエネルギー】

木の根おひさま、東峰陽鶏、そして多古町でも
＝広がる農漁村発電網＝ 樋ヶ守男

おひさま発電所供給電力量と電気使用料

	供給電力量 kwh	売電価格 円	使用電力量 kwh	電気使用料 円
昨年 7 月	255	10,710	176	4,574
8 月	373	15,666	151	4,103
9 月	301	12,642	146	4,066
10 月	251	10,542	117	3,325
11 月	0	0	120	3,420
12 月	426	17,892	113	3,269
今年 1 月	206	8,652	144	3,923
2 月	299	12,558	124	3,388
合計	2,111	88,662	1,091	30,068

注 供給分の12月は11月分との合算です。

◆おひさま発電所は8ヶ月で2609kWh

昨年6月、木の根ペンションの屋根に完成したおひさま発電所は、7月4日から東電に電力供給を始めました。上の表は、昨年7月から今年2月までの供給電力量・価格とペンションでの使用電力量・料金です。8ヶ月で2111kWhの電気を供給したことになります。ただ、昼間ペンションで使用した電気の残りを供給するわけですから、実際の発電量はもっと多く、3月3日時点での積算発電量は2609kWhでした。2月末までの約480kWh、月平均約60kWhの差が、昼間ペンションで使った電気、その分電気料が安くなっています。

◆陽鶏発電所も快調、予測より16%増し

昨年秋、成田市東峰にある三里塚ワンパック鶏舎南側屋上。150W78枚、最大出力11.6kWでオープンした陽鶏発電所ようけい総州は、11月25日東電とつながり供給を開始しました。最初の10日は、「さざんか梅雨」とやらでほとんど発電せず、がっかりしていました。その後、山あり谷ありでも、11月25日から2月末までの総発電量が3048kWh。最初の発電シミュレーションでは同期間で2621kWh。その16%増でした。

鶏舎仕事の最後、日が隠れたら積算電力計を見て、その数字と天候を産卵ノートに書き込み

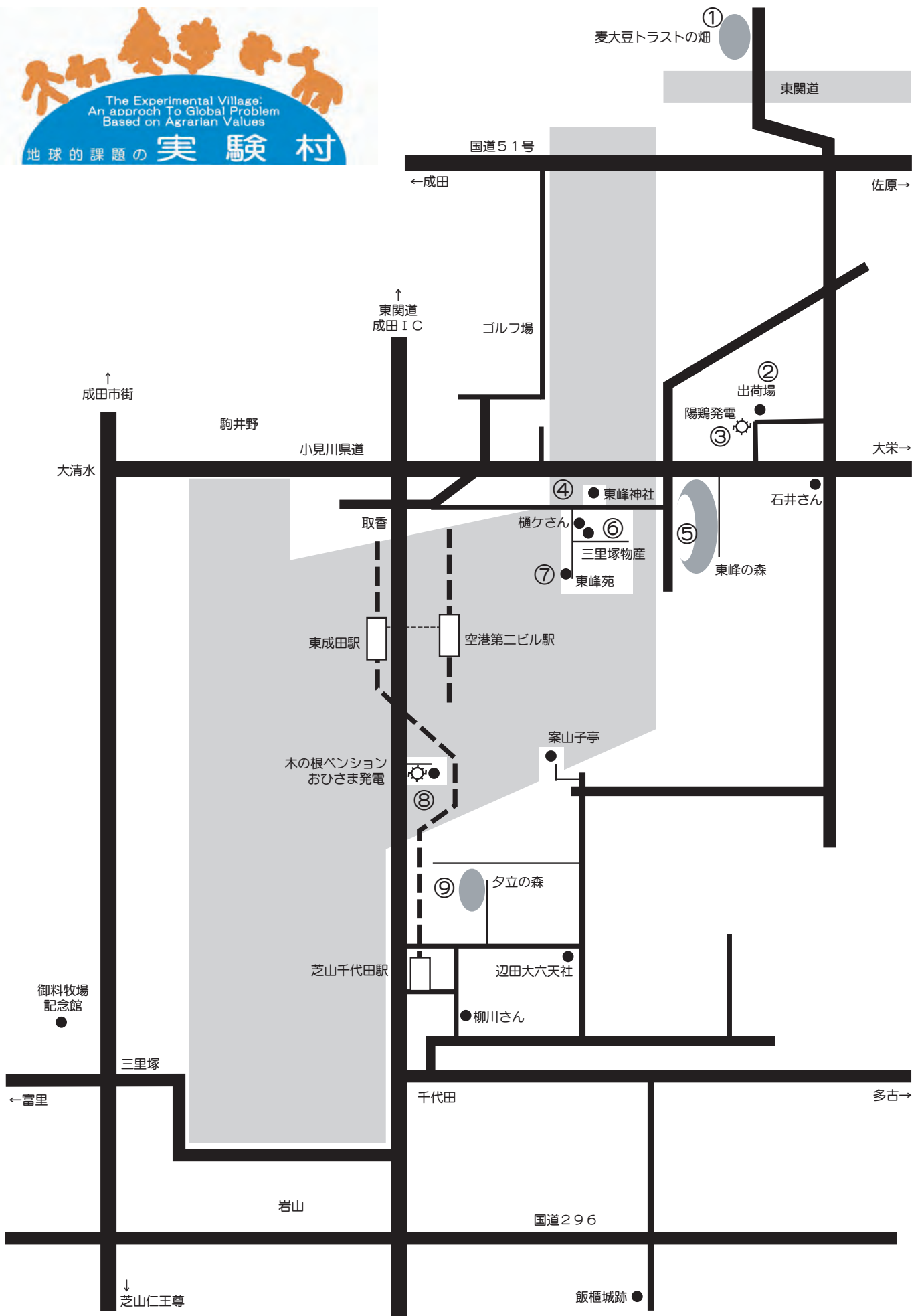
ます。朝いちでインバーターが動いているかの確認から始まって、日が陰ったり照ったりで、今の発電量は？と、確かめるのも面白いことです。生み出されているエネルギーに敏感になれば、その行き先、自分たちの使っているエネルギーにも敏感になります。

◆4月にはまた多古町の鶏舎で発電所が誕生

昭和30年代まで日本の農村、人口の大部分にかかわる場所では、食糧だけでなくエネルギーを作っていました。薪や炭はもちろん、牛馬に食べさせるエサもエネルギーをつくることでした。でも百姓たちがエネルギーを他人たち、工業や資本家に委ねることに無自覚になった結果の一つが、福島原発事故や廃村・限界集落群なのではないでしょうか。原発再稼働やTPP、沖縄軍事基地強化… 与野党あげた棄民政策に抗し、百姓たち—民衆が生きのびてゆくためには、エネルギーを作ることを循環や自治の要として取り戻す必要があります。それは、逆に「エネルギーを作る」ことの大変さに気づかされ、自分たちの希望や主張が民衆の置かれている現実—その「選り取った現実」から遠いことにも気づかされます。でも、だからこそ「農漁村で原発一基分の電気を作ろう」です。

陽鶏発電所と鶏舎内の展示パネルを見て、隣町の平飼養鶏と無農薬野菜農家—菅沢広志さんが、「自分の所でも」と、10kW超の発電所を作ることを決めました。すでに経産省の認可をとり、4月にはまた桜井さんチームが発電所を一つ作ってくれます。





スローウォーク in 三里塚 地図の説明

①麦大豆畑トラストの畑

麦踏みもすんで、そろそろ草取り。

②三里塚ワンパック

三里塚有機農業の40年の歴史を持つ有機農産物・加工品出荷グループ。実験村の元研修生も就農しています。

③陽鷄発電所・総州ふさのくに

村民ひのけの樋ヶさんが三里塚ワンパック鶏舎の屋根に12年10月に作った太陽光発電設備。最大11・6kw。選卵室では資料・写真を常設展示しています。

④東峰神社

東峰区(村)の開拓期の1950年に創建された村の鎮守社。成田空港の第2滑走路は、この社の北に設置されている。

⑤東峰の森

現在空港会社所有だが、県有林だったところからの東峰および周辺住民の入り会い地。第2滑走路の東側誘導路はこの入り会い林を一部潰してつくられた。

⑥三里塚物産

愛称「三里塚のらっきょう工場」。らっきょう、落花生、にんじんジュースなど地域の有機農産物の加工をしている。

⑦東峰苑

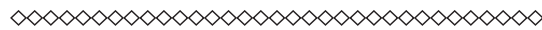
元空港闘争一坪運動跡地に去年作られた庭園。季節をとおして花が楽しめるよう樹種が選ばれています。

⑧木の根ペンション

地球的課題の実験村の寄り合い所・宿泊所。芝山鉄道は地下を木の根ペンション敷地を迂回するように走っている。

⑨夕立の森

地球的課題の実験村/北総台地夕立計画の活動の場。荒れた里山の回復などにとりくんでいます。



実験村2012年度活動

4月 8日	年次寄合	8月	麦・大豆畑トラスト 培土・畝立て
21日	北総大地夕立計画 夕立の森・山仕事	18日	おひさま発電所稼働開始! 原発の電気にたよらない! 木の根夏祭り
25日	TPP反対1万人キャンドル集会(実験村は賛同団体)	30日	相談会
28日	三春花見(実験村協力団体) 三春発電所(実験村参加団体としてカンパ)	9月15日	北総大地夕立計画 夕立の森・山仕事
5月 初旬	太陽光発電のため木の根ペンション屋根の改修	10月13日	麦・大豆畑トラスト 麦まき
24日	通信53号発行 相談会	27日	北総大地夕立計画 夕立の森・山仕事
26日	北総大地夕立計画 夕立の森・山仕事	11月10日	麦・大豆畑トラスト 麦まき
6月	TPPに反対する市民アクション・キャンペーン月間(実験村分担金参加)	11日	東海第二原発を考える市民学習会(実験村後援)
11日	相談会	17日	北総大地夕立計画 夕立の森・山仕事
15日	木の根ペンション 太陽光発電計画工事(3日間) 工事後発電開始	29日	通信55号発行 相談会
16日	北総大地夕立計画 夕立の森・山仕事	12月 8日	麦・大豆畑トラスト 大豆の収穫
20日	8月18日祭り準備会合(三里塚)	13年	
23日	北総大地夕立計画 夕立の森・山仕事	1月12日	麦・大豆畑トラスト 麦踏み
7月 4日	ペンションの太陽光発電、東電回線と連系売電開始	15日	通信56号発行 相談会
7日	麦・大豆畑トラスト 大豆の種蒔き	19日	北総大地夕立計画 夕立の森・山仕事
20日	通信54号発行	2月 9日	麦・大豆畑トラスト 味噌 麴づくり
21日	北総大地夕立計画 夕立の森・山仕事	16日	北総大地夕立計画 夕立の森・山仕事 麦・大豆畑トラスト 味噌 しこみ
		3月14日	通信56号発行 相談会
		3月23日	北総大地夕立計画 夕立の森・山仕事

東海第二原発訴訟の初公判

1月17日、東海第二原発訴訟の初公判が開かれました。原告だけで268人の大訴訟です。原告席も前半と後半に分かれて入れ替え制でした。一緒に行った旭市の関本さんは前半、私は後半と抽選に当たり、入廷出来ました。

5人の弁護士の弁論、大石共同代表ら3人の原告の陳述はみな説得力があり、国・東電を圧倒した初公判でした。最後の報告集会まで4時間、あきることなく裁判を堪能しました。

今回は4月18日午後1時半からです。集合場所「三の丸公園」の花見も楽しめそうです。

(樋ヶ守男)

※前号「陽鷄発電所」の記事で電力単位を「kw/h」と表記しましたが、「kwh」の誤りでした。不明をお詫びします。

三春・滝桜花見に行こう！

あの3・11から2度目の春がめぐってきました。日本三大桜の一つ、福島県三春町の滝桜は、変わらずきれいな花をつけ、華麗に咲き誇るでしょう。福島「農と食」再生ネット（代表：西沢江美子）とJVCやAPLA、PARCなどNGOや市民グループでつくる「滝桜花見祭り実行委員会」は今年もバスツアーで花見を実施します。

「滝桜花見祭り」は震災・原発事故直後の2011年4月の第1回を開催、昨年2012年も実施しました。今年で三回目になります。日程は4月28日（日）を予定しています。朝東京を出発、三春にお昼頃に着き、滝桜を見た後、芹沢農産加工グループのみなさんと交流をして、帰途につきます。東京着は21時頃の予定です。ご参加をお待ちします。

連絡先：村民 西沢江美子

0494-25-4782

活動予定

4月 7日(日) 年次寄り合い
10:15～ 夕立の森
スローウォーク in 三里塚
4月13日(土) 麦大豆畑トラスト 草取り
20日(土) 北総大地夕立計画 山仕事
5月18日(土) 北総大地夕立計画 山仕事
6月 麦大豆畑トラスト 麦刈り
15日(土) 北総大地夕立計画 山仕事

～村民になってください～

実験村は、いまの社会のありようと、私たち自身の暮らしを足元から問い直そうという試みです。国際空港という巨大開発に抗し続けてきた三里塚の地を拠点に、人々と結びあいながら水を、土を、森を、人を大切にする“もうひとつの里”づくりをめざします。あなたもぜひ、村民になってください。

○村民費 3000円
○麦大豆畑トラスト 5000円
○通信購読のみ 1000円 ※年3回

郵便振替 00140-3-92555

地球的課題の実験村

<問い合わせ>

電話/FAX：0476(26)1654 平野

メール：jikken-mura@jcom.home.ne.jp

URL：http://members2.jcom.home.ne.jp/jikken-mura/

【編集後記】

桜とともに実験村年次寄り合いがやってきます。今年の年次寄り合いは、「活動予定」にありますように4月7日（日）。夕立に森の「寄り合い」のあと、三里塚スローウォーク。そのための地図と案内を今号に入れました。三里塚の生産と暮らし、活動の場をゆっくりと訪ねます。弁当をご持参下さい。

■編集・発行／2013年3月14日「地球的課題の実験村」

■購読料／年間1,000円（年3回）

■56号編集担当／大野和興・平野靖識

■共同代表／柳川秀夫 千葉県山武郡芝山町香山新田22
大野和興 埼玉県秩父市大宮5734-4